wave Jack

IMA-MAJ

行(ゆ)け、トール
今(いま)こそこの国(くに)に、
平和(へいわ)を取(と)り戻(もど)すのだ！

イラストレーション/雨宮慶太・橋本満明

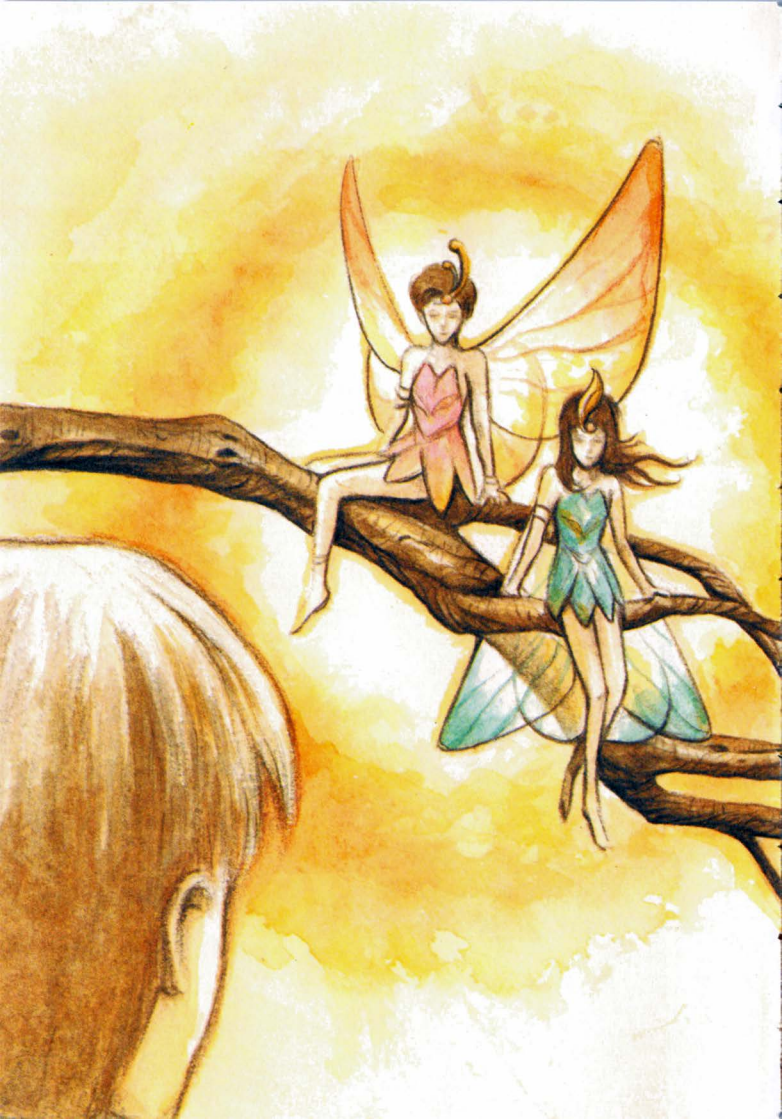
Ⓒ1987 IMAGINEER CO., LTD.

アース・ムーラル――
そこは、幻界と人界とを貫く
宇宙樹ユドグラシルを中心に広がった国である。

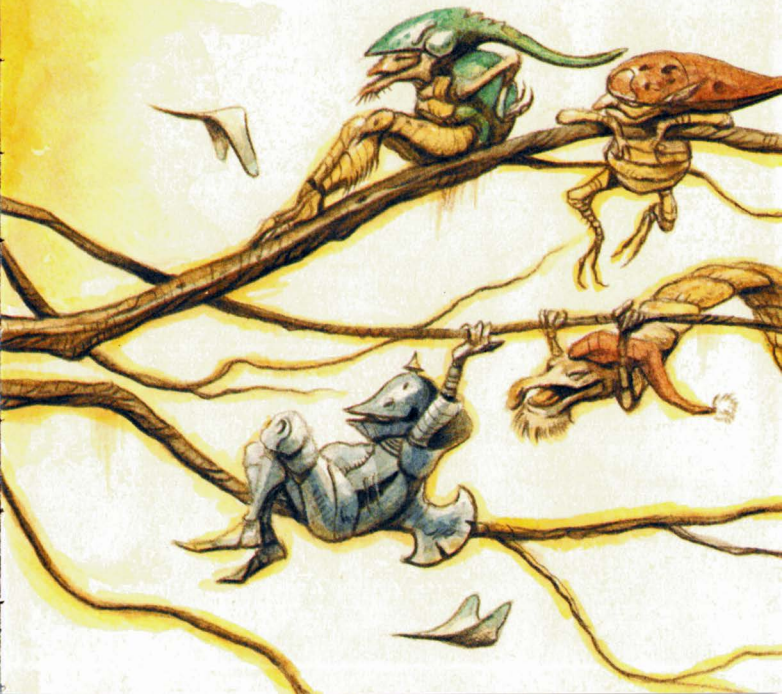
アース・ムーラル伝説

第1章

ミズガルズ村の少年



助(たす)けてくれて、
ありがとう。
私達(わたしたち)が、
ピピとポポよ。



トールは、
魔獣(まじゅう)をうちまかした！

「今こそ立ち上がれ！」

神の声？

トールは母の形見の剣を取り出した。古めかしく厳粛なその剣は、トールの背丈ほどもあったが、気持を込めて鞘に手を掛けると、トールの体のなかに不思議な力が沸き起こってきた。

トールはその力に導かれるように、もう一度森に向かった・・。

トールの胸は高鳴っていた。僕がロア王家の血筋を引くたった一人の騎士だなんて・・・。

アース・ムーラル伝説

第4章

トールの旅出ち

アース・ムーラルに再び
平和を取り戻すことは
出来るのか・・・。

今度は
妖精界すらも、
その
邪悪なる手中に！

魔獣一族の侵略は
再び開始された！

妖精国の王妃
フェラリオアールグ。

妖精国は
神の創られし
国なり。

「そうじゃ。アース・ムーラルを救ったのは、妖精の国より授かった聖なる力と人間の善の心じゃ。神は人間が善へと導かれるように魔獣王国に対抗する力として、妖精の国をお創りになられたのだ。人界が魔獣一族の侵略により悲惨な有様になった時、妖精妃フェラリオアールグは、二人の勇気ある騎士に聖なる力を贈ったというわけじゃ。

そして・・・時が巡り、長い平和の日々のなかで人々がこの悪夢をすっかり忘れかけた頃、魔獣一族の侵略が再び始まったんじゃ！」

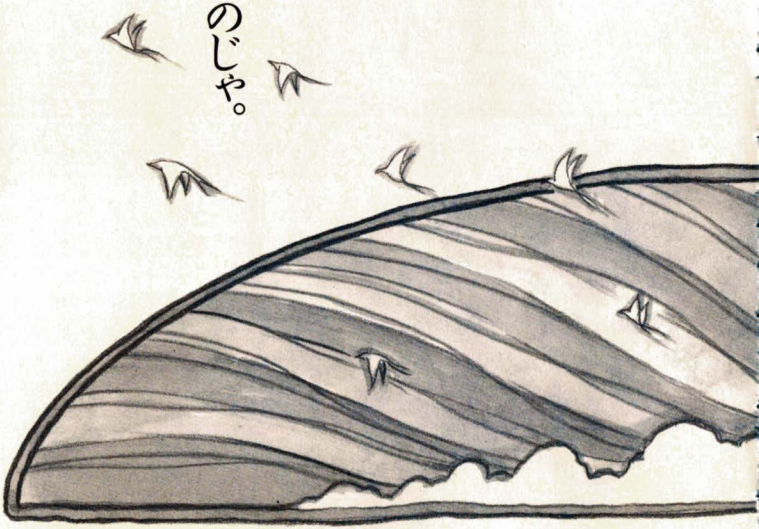
アース・ムーラル伝説

第3章

妖精の国

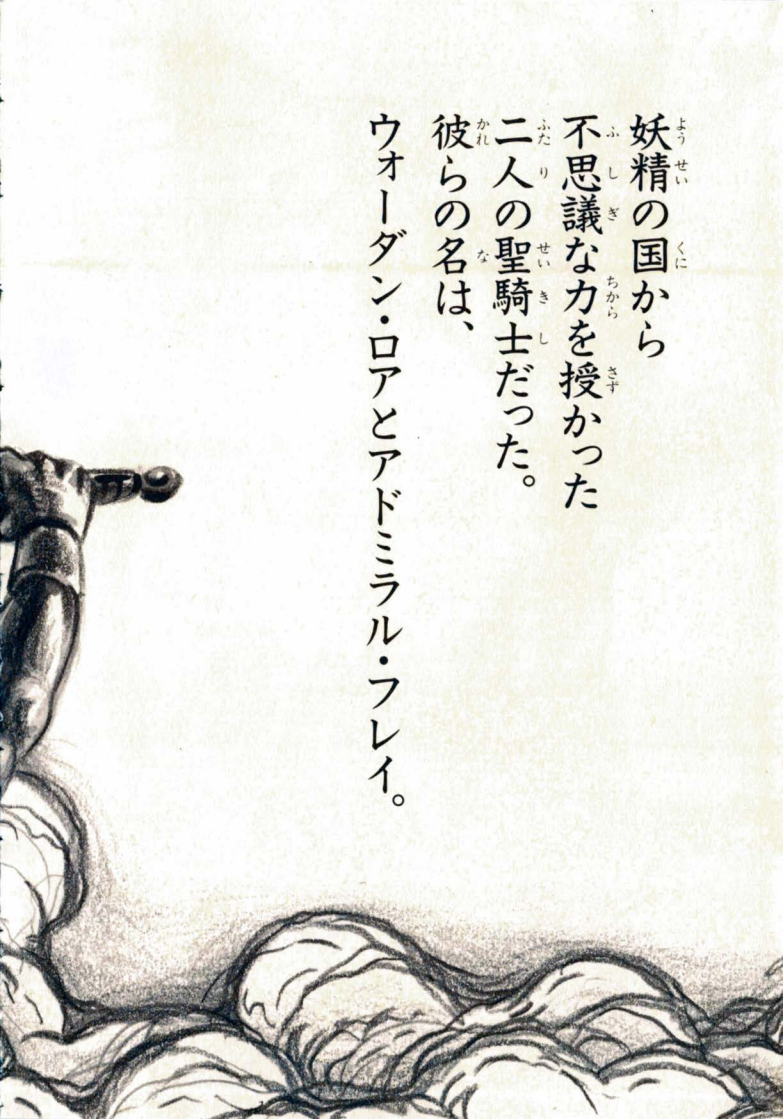
人々は、ウォーダン・ロアを国王とした。
トール・ロア、
お前の先祖じゃ。

二人は、その
聖なる力で
魔獣どもを撃退し、
国に平和を取り戻したのじゃ。



耳を澄ませ、迷いの森を抜けよ。
聖なる剣を合わせたとき、
大魔王を打ち負かす力が・・・！

妖精の国から
不思議な力を授かった
二人の聖騎士だった。
彼らの名は、
ウォーダン・ロアとアドミラル・フレイ。



平和な国は
踏みにじられ
もはや全滅かと思えた・・・。

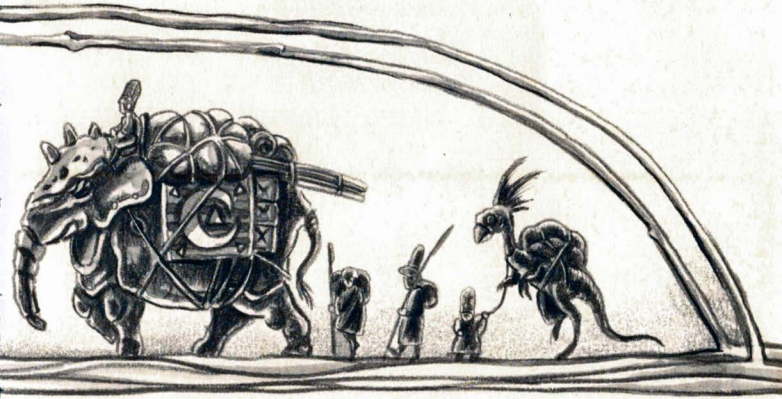
その時、
二人の騎士が現れた。

人界は初めて
魔獣どもに
襲われた。

悪しき力に魅せられ
大魔王に魂を売った男。
その名はザルガバエル。

誰もが国中どこへでも好きなときに旅することが出来たものじゃ。

「――この国を初めて魔獣が襲ったのは、今から一千年も昔のことだ。幻界と通じたひとりの男が魔獣一族に魂を売り渡してこの人界へと導いたのだ。そして邪悪なるものどもに侵略された。」



「来たか。待っておったぞ、トール。私は永い間、ここにこうやってアース・ムーラルを見守り続けてきた。お前のこと、お前の父のこと、そしてお前の先祖のことも・・・。何もかも全て知っているぞ。」

森の精は低く、よく通る声で、ゆっくりと語り始めた。

「むかし、アース・ムーラルは緑と平和に満ちあふれた幸福な国であった。今でこそ、人々はただ一つの安住地ミズガルズから一歩も外に出られなくなってしまっているが、当時はいくつもの村が栄え、

アース・ムーラル伝説

第2章

森の精の話

わしか、
わしは森の精じゃ。
教えてやろう、
お前の知りたい
ことを・・・。

ふぁーあああ
誰(だれ)じゃ、わしを
起(お)こすのは・・・・。

トールは森に入ってみた。
何かの気配がするぞ。

あの森の奥には、
一体、何が？

父が
森の向こうに旅立ち、
そして
数年が過ぎ去った。
母は不治の病に倒れ
帰らぬ人となった。

子供は
伝説の雷鳴神の
名をとって
トールと
名付けられた。

ミズガルズ村に、
小さな希望の火が、
一つともった。

人々は、
最後の安住地
ミズガルズ村に
ひっそりと暮していた。

この国は今、
恐ろしい魔獣たちに
覆い尽くされている。

春には草原に愛らしい花が咲乱れ、秋には木々にたわわに果物が実り、人々は平和と自由を満喫しながら幸福な日々を送っていたものだった。ところが今や・・・草原は緑を失って荒野となり、村々は破壊し尽くされて廃虚と化し、不気味な氷山や砂漠が広がる上空を、どんよりと黒い雲が絶えず垂れ込めている。

イラストマップはゲームマップと一致しておりません。

アース・ムーラル伝説とは
聖剣サイコカリバーにまつわる
物語である。